

よみがえれ地方語

◎ 5 ◎

船津 好明

沖縄文字と発音

③

対照国語文字 沖縄文字

け くん

音韻記号 = kwe
国際音声記号 = [kwe]

対照国語文字 沖縄文字

げ ぐん

音韻記号 = gwe
国際音声記号 = [gwe]

対照国語文字 沖縄文字

は ふ

音韻記号 = hwa
国際音声記号 = [ɸa]

対照国語文字 沖縄文字

ひ ふ

音韻記号 = hwi
国際音声記号 = [ɸi]

発想——国語文字「く」と「え」を組み合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

用例——ヌー(兼)、ヌーヌー

—(のんだくれ)、からじヌー

—(かみきり虫)

対照例——けー(かめ)、ちけー(使い)、ちゅけー(よいい(隣近所))

「ヌ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめてやや尖らせ、国語の「く」と「え」をほとんど同時にいうようにする。「え」の発音が近くなる。発声直後は唇が緩み開いて「え」を発声したときの形になる。「くえ」のように二音に聞こえるような発声は正しくない。

× × × × × × × ×

発想——国語文字「け」と「げ」の表記上の関連に習い、「ヌ」に濁点を打ったもの。

用例——ヌったい(ぬかるみ)

対照例——げー(害)、げー(願い)

「ヌ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめてやや尖らせ、国語の「ぐ」と「え」をほとんど同時にいうようにする。「え」の発音が近くなる。発声直後は唇が緩み開いて「え」を発声したときの形になる。「ぐえ」のように二音に聞こえるような発声は正しくない。

発想——国語文字「ふ」と「わ」を組合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

用例——あー(粟)、なーあ

(那覇)、じーあー(かんざし)

対照例——はる(畑)、はきもー(荒地)

「あ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇を軽く接して、国語の「ふ」と「わ」をほとんど同時にいうようにすると、「あ」の発音が近くなる。発声直後は唇が開いて「あ」を発声したときの形になる。「ふわ」のように二音に聞こえるような発声は正しくない。なお、英語の ɸ は上前歯に接した形で発音されるので、「あ」と異なる。

発想——国語文字「ふ」と「い」を組み合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

用例——ふじゃい(左)、ふー(いるか)、なーふん

(更に)

対照例——ひやみかすん(えい、という)

「ふ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇を軽く接して、国語の「ふ」と「い」をほとんど同時にいうようにすると、「ふ」の発音が近くなる。発声直後は唇が開いて「い」を発声したときの形になる。「ふい」のように二音に聞こえるような発声は正しくない。なお、英語の ɸ は上前歯が下唇に接した形で発音されるから、「ふ」と異なる。

(沖縄語研究者)